

教訓御伽草紙初編卷之下



東都 松亭主人輯錄

中ノ羽及勝岡の森。此本今有傳つて人あり元ハ
 林中ハ仕宿。枉吏成勳よりかかしの野成得く
 彦所へ引籠る。史婦が中ハ女れ子一人と綴け。森内ニ
 人の番しめん。朝夕農業と做し。かの唐土の伊尹が有華
 の野不耕し。堯舜の至成樂し。此を慕ひて清く

ちりて。天年と違うけ。さるふ近きなり。続き。季候
宜く。田畑の登り。病。米價は漸く小き事あり
けり。所ふ。今年も不時の冷風或は風雨のため諸
仍我彼らに措かざる青まとなりと一粒も登らば。
小粒々。圃中大小飢饉。是々の結きめいり方小粒
歩み。また山へ入て葛根蕨などを採り食ひ求む
ども。年光方の式に病ひ伏する者。更小食ひ求む
ぬき。重く餓死する者多し。今よりあはれなる

の^{おの}
 思ひぞ。米穀とて、あふ黍又粟もあまき。野人の限りよりゆゑ。
 恥人よ思へ。心なきもの善事々ありとてども。國来富むるあり
 れど。限りある人々の恥を救ふあり代。吾方の足ざるを人知し
 ぬ。愚問へける。その渾家なる者も良人よ。若らぬ義賊は性賢
 る。新義園竊奪人と名ふと思ひぞ。そのおれ親友衣衣あど
 依りて。数個の餅を救ひける。今い僅く喰ひあける。
 小袖二ツなりぞ送りける。是等酒を飲み救はんといふ。良
 人今あふ見せ諭すといふ。そ方の志疎勝るゝ世に

有りて善根と云ふは。男と云ふは。女のおり着替の小紐
ツニツハ如何も。貯へて。是より其の除所へ
寄申も不自由と云ふ。澤家へ関し命さる事多し。
着替の衣類を云ふ。服所へ寄れ。酒中食物を
あ。飢死する人より。吾儕一人の衣食を云ふ。
と。衆も云ふ。如く。且て人々を救はん。云ふ。
う。信より。終る事。人々を救はん。云ふ。
かり。今。些少の貯へ。漸く其日云

通方わたりのときより一日十二四の女児むすめ門かどよりきておれをふ。俵家
 あり。向むかへとて食くらふ。得える。是こゝろより。の。乞こ食くふ。より。之これ。
 け。ま。る。る。飢う饑うみ。て。俄たちに。物もの貫ぬひ。と。あり。あ。や。と。い。ひ。あ。ひ。あ。
 て。あ。く。り。あ。み。い。と。垢あせ。漆し。方かた。單ひとへ衣え。成なり。あ。ひ。纏まとひ。の。ま。よ。ま。さ。あ。ん。
 痲あせ。毒どく。え。發は。へ。む。と。あ。ひ。う。ち。乳ちち。一ひと。と。多おほ。量りやう。頂ちやう。の。垢あせ。づ。き。さ。る。わ。ら。
 喜よろこ。ま。し。あ。ひ。け。し。ま。さ。き。や。と。の。来き。歴れき。成なり。問と。け。り。よ。ま。その。女むすめ。児こ。答こた。
 今いま。い。ふ。や。う。妻つま。の。陸りく。奥おく。の。者もの。あ。る。が。の。凶きよう。年ねん。の。遭あひ。ひ。少すこ。し。の。田でん。
 地ち。は。あ。り。う。続つづ。き。さ。る。ま。よ。の。食くら。尽つ。し。今いま。い。ふ。す。べ。き。や。う。あ。ん。



處女の
仁心
衣を
脱て
乞食
少女小与ふ

その渾家その思ふよりまた斯
のどきのゆあり。緞令一家
治りも一國一郡と治りもその
心操い麻かたし。惣て人の心
えりの心まんばわんく代徳而
后より大守小関え数より
褒美と賜るのまゝにば持人
る田畑の年貢納めと免除

子孫永に傳りたりふるべしと
命ぜらる。今を過つて猶も時
慈悲善事と傳りけるも。近郷
と直に服風と慕ひ。その一郡ふあ
て不孝の児より不義の親より。
上下親と長幼の序失はれどと
候より。鈴木氏が仁の徳より
のありとてくそ教やとや



廻國の
僧
婦人
赤心の
感
金を
貯
を
与ふ

一、半陸の國と云。その村名及寺號を初めに。
 其基菩薩自作の觀世音成安置せる灵場あり。
 當時閑帳ありて。迎は迎なかりふ及ぶ。養老の
 貴賜群集なりける。奇れ門前ハ旅系童兒を
 抱く。狗の小屋に坐し。中ハ。年數六十歳超
 方六十の翁。病疲するが。往來の人小物を乞ひ在
 けり。あるあるの六勢の男。ある程を病ひゆり。常
 ち容ふらん。ちや枕さく。搦澤ぞ。程迎き人の情ある

乳て乳えんとく人のあはれで理ある。然るに這より程迄を
 邑の農具の妻めて。這年十八歳ふあところ。推あを思を
 抱ま。逆くあがり。き如ふこに人々。岡張の嶺に。あ
 食の頻りゆ乳とををえく。ゆき喜ふあひとさ
 家小婦の良人あ男ゆひくその物語り成り。勿
 端より頃邑の人の。噂あも岡及び。新あるが。その乞食の
 乳とをふ最勝。実ふ不便ありなり。吾々は婦人令
 あり。家貧しきところ。西親を常ふ持病ふ親と

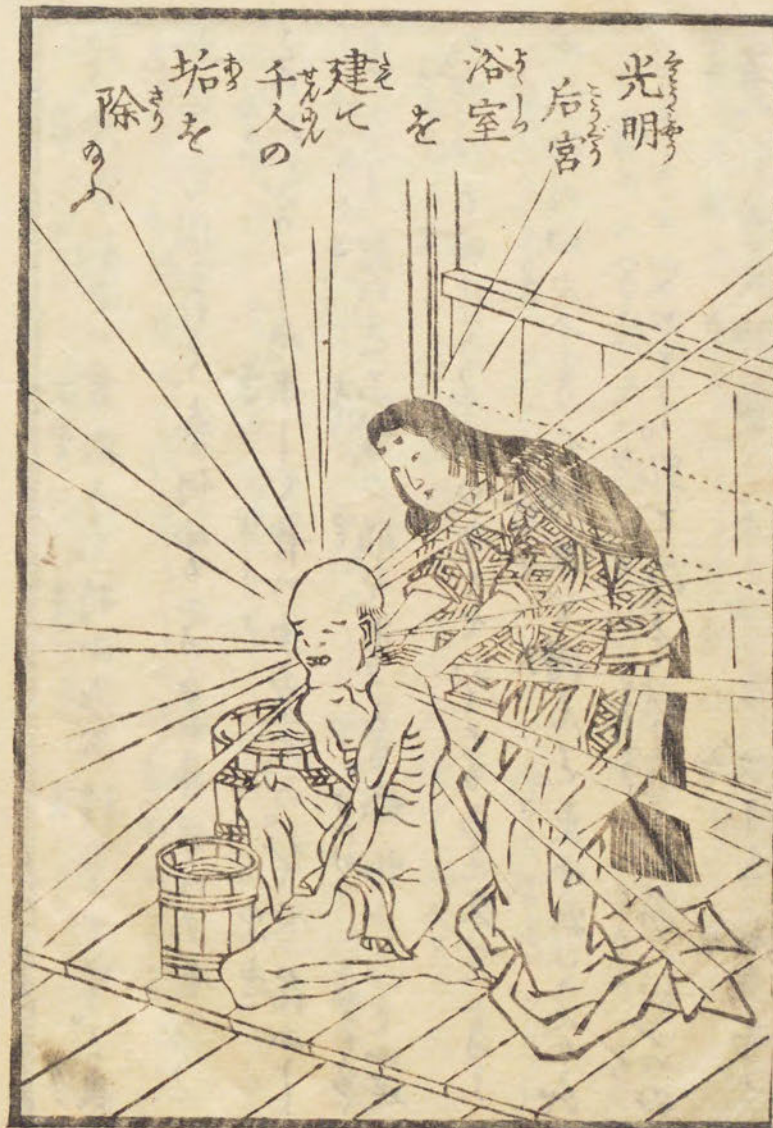
あひく。一日片時も、その腹我れ由るべし。とて、
の同縁をやとむ。専ら慈悲善行をも修するを
おぼへど、貧乏にまゐりて、今かの世に於ける
て居ふ。実におもひあるうち、乳母を養はせ給ふ
すれは、渠が子に仕へて、乳母を養はせ給ふ
善妻の端ともあらんやと云へど、おん子の
まはそとも懐かず。奈何哉！あつたきやと云ふ良人
あり。其方の志強勝あり。神ありとも善事成

といふ。吾等々あはれをいふべき。君もあはれといふ
 あ妻わうち移る家とまふ。只我平々く彼処あふま
 六部の乞食の例のごとく。あまぐれを移るあふま
 往来の人を乳と乞く移る。かくく彼女々あふま
 前あふま。年々くそ方かそ方あふま。吾乳とあふま
 懐とあふま。ほくくそ移るあふま。あふま見
 より堂我合を移る。あふま。あふま。あふま。あふま
 母。くくあふま。下僕ハ元難波のあふま。若さ

只家も富来え眷属も多し。物々しくあふま
 ね。ささす稍小驕の心を生ず。茶道を学ぶあふま。古
 お畫の用もあふま。金も求め。胡文の衣類を
 元の調度あふま。只管あふま。あふま。あふま。あふま
 交りく。酒を飲。あふま。傾城をひく数多乃
 金銀と貴し。親より譲り受る。地屋敷も。大々々
 失ひする。その冥罰をや妻と先づ。儘きて児は二人
 亡ひられ。そのさだ肇て身の放蕩あふま。あふま。心

改めて活業と云ふんとし、新小。迎瀬より火火しく。
 家財も大に焼失ひ。活遺し、土庫の一字あり。小
 も火が入り。悉く灰と多し。今ハ世渡りだ。
 便もあ。おと金。放蕩中。人徳と毀ひ。天乃
 山。怒りあふ。一と暗り。石はひ。暇と。焼跡の地
 面。炭。賣。持。ひ。た。と。炭。路。利。と。と。回。国。出。今。年。ろ。
 四年。及。び。迎。當。る。国。へ。来。り。一。分。竟。は。不。治。の。病。ひ。炭
 登。一。郷。人。の。情。小。う。斯。小。屋。と。違。り。雨。露。と。と。凌。ぐ。の。

る。凌ぎ。新。小。ハ。業。病。ろ。持。小。炭。持。た。ま。ろ。と。長
 物。持。り。て。回。り。け。奈。何。も。そ。の。家。尋。常。の。食。食。ろ
 ら。ハ。ハ。ダ。一。分。果。一。昔。ハ。由。ある。人。の。か。零。落。小。
 の。あ。ろ。然。れ。と。不。孝。の。罪。々。あり。と。懺。悔。ろ。ば。ま。運
 の。罪。科。由。減。ま。と。ろ。お。の。世。を。か。て。も。あ。と。来。世。ろ。
 中。順。拜。の。功。力。あ。り。て。佛。果。と。得。ん。と。更。小。難。ハ。ま。ろ。ば
 の。ぞ。そ。ろ。方。が。望。の。ぞ。乳。と。勝。ろ。性。生。せ。よ。と。破。六。教。が。いの
 ぞ。乳。首。が。持。渡。ろ。さ。一。つ。と。是。れ。若。一。き。身。成。り。と



つ
吻き。六部を形成及びく。下僕将人の乳を乞ふ。
あま
一挙の謀計にて敢て乳味成好むあり。かく釋ら
あま
ずき乞食の維る乳を賜ふ。總じて日が過ぎぬ喜
あま
しう。り。昔えんとり人あり。世も罕なる大名人
あま
その志成あり。人々恃み慕はせたるあり。あまあると
あま
いひ傍の友といふ。服紗衣最よりめでさうあり。
あま
叔母おん身が志。肯身小鶴よりけり。是れ其志あり。
あま
ゆかりあり。と因て婦人の髪を振り。此方よりとを賜ふ。

べけは年々万の貫元や。とり小六郎を莞尔と笑。
 そのむろ余せられど。我ちや死期も迫きふあり。おん
 かづき滅ある。人小贈らざり。ゆせん。さ願ふ下僕
 亡後のゆと情をあらう。年頼とふ載て。婦人
 膝の上あけけ。婦人々心あうねども。その色をさう
 揚て。老ぎ家路は帰る。舅と姑良人。その故を
 具さふ。打うて。閑きふ。金子三百あをけり。
 所の工ふ。呆と果く。親子目と目。父兄命をの。

久知孫のとき。のありと。小六郎。活有大金あり
 度。一。男ひ。あびと。母。嫁と。留はる。りて。ま
 り。日。来。き。万。が。孝。以。負。実。神。や。佛。の。冥。恵。叶。ひ
 あり。あ。び。も。ら。の。大金と。得。あ。け。り。の。と。是。方。あり。然。れ。ど
 ち。の。終。小。も。あ。り。ざ。う。ん。ま。づ。彼。所。の。寺。へ。至。り。住。持
 早。譚。合。あり。老。も。斯。も。針。り。づ。と。親。子。之。人。立。出。て
 彼。人。と。懐。む。べ。一。ち。や。彼。六。郎。の。緯。され。て。の。の。ひ
 交。せ。初。め。あ。け。ま。ば。也。さ。ぬ。寺。小。欲。き。ん。住。持。小。如。此。の。

一、紙綴り。佐持を因て眉と聲。かの六終が為体
 きのあうとと思ひし。門前ふゆりあき。が果し
 然る由緒のあり。既ぬ渠死し。ううい。生前の志ふ
 任せ。今らん身等受納め。骸い此方へ葬る。しといふ
 人い。と揃へ。まづ渠が菩提とて。今より身等へ納む
 ぞ。未歴樞機もあ人あり。其今我受べき謂とす
 と。因く佐持のあ。又き。うくもさう然い。あ。渠婦
 人の乳とて。既ぬその志のあ。我親の黄金と典す。後

哉やども。辭せし。その志と果せし。あ。の。さ。わ。ば。菩
 提のあ。さ。て。その寺へ納め。渠が本意。背く。の。あ。
 未歴樞機の。と。い。ど。因。推。果。と。説。な。を。極。め。
 謂とあ。ゆ。さ。し。ん。ん。身。等。丈。婦。親。不。仕。え。考。り。あ
 人。食。初。あ。れ。ども。家。貧。し。く。養。の。不。任。せ。ぬ。あ。う
 ぞ。その節操と神佛の。懐。を。あ。ひ。く。授。り。あ。の。不。然。が
 あり。あ。の。あ。う。き。ま。う。あ。あ。と。思。ひ。埋。め。ん。と。う。今。の。あ。う。き
 あり。あ。う。き。ま。う。あ。あ。と。思。ひ。埋。め。ん。と。う。今。の。あ。う。き
 あり。あ。う。き。ま。う。あ。あ。と。思。ひ。埋。め。ん。と。う。今。の。あ。う。き

五十一

受納め。渠が先祖と並に祀り。追善佛事懸る。渠が
灵魂満足する。と理非明白に曉され。人々漸々
心成淨の。佛の黄金を収め。傾く。推る。替へる。お六
が亡骸を。原く。寺に葬り。佛の懸る。一畢り。
より。修ふ。入。田畠と受度。且。新田。地
求め。農作。不。精。將。茶。と。畑。お。親。不。進。
多。病。お。親。も。病。今。收。く。紫。男。代。目
小。倍。千。今。孫。連。家。富。富。え。偏。小。婦。人。が

紙意ふ。と。彼里人の。い。り。と。や。ね

松亭主人。昔。聖武帝の。所。肌膚。白玉の。如く
光耀。け。光明子。と。号。佛。信。ト。あ。と。添。く
帝崩。の。後。一。字。の。活。室。で。補。理。貴。財。の。味。添。さ。
く。自。り。十。人。の。垢。除。く。既。小。九。百。九。十九。人。で。終。千人
目。小。あり。中。膿。爛。する。癩。病。人。の。風。景。不。添。底
勉。め。毛。が。垢。除。く。小。隅。の。曰。く。是。真。面。小。同。人。で
あ。く。の。膿。と。吸。あ。癩。疾。忽。小。愈。んと。り。底。の

度ーと切ふりく小足雅多々。遠うのりの取集め。潤り
爛と做ーくゆーうけはる人うち来て。誰かと握えり
欣やどぬ。ちや子一刻の頃とありけり。當下一個の侍亭と
ぬ。さうくさーの情とあり。其を別の仔細ある。賣溜の沙
箱と借受うとふ亭主。さういふ情とあり。さういふ
戯と余余する。あ。彼沙箱。然るが露命と勢と元
あり。紳ーあーと退くと。ま。一個の侍とあり。武家
對ひ戯とふらふ。ぞ一回借人とあり。さういふ情とあり。さういふ

引きあはれせん。沙箱の侍人来り。撥抱きとせん。誰んと
する。亭主慌て携りつ。さういふ情とあり。把度さんと
する。威ーの刃と見りと。拔借とあり。さういふ情とあり。
と切る。さう持てせん。さういふ情とあり。さういふ情とあり。
飛退く折る。ツのふ。露命とあり。侍が腕へ。さういふ情とあり。
嗟やと刀と持る。その腕へ。さういふ情とあり。さういふ情とあり。
ひかえ。さういふ情とあり。さういふ情とあり。さういふ情とあり。
踊りあ。さういふ情とあり。さういふ情とあり。さういふ情とあり。

落^{おち}然^{しか}然^{しか}の^もみや更^{さら}ぬその素^す性^{じよう}と明^{あき}き^きは^のまより后^{のち}を^のあ^ら
 謝^{まう}で。多^{おほ}量^{りょう}叙^{ぎょ}酒^{しゆ}店^{てん}と美^い名^なく人^{ひと}々^{びやく}と^の情^{じやう}ありとぞ

所言之老母が尋ねる所聞が不縁。寢る心ありん

りの。唯^も斯^ををわづけ^は也。婦^の女^のの心^をも感^をを

十三年八月
夢の野を歩く
似うとくども。時ふと月を
新紙に
る。

是日
微雨

教訓御伽草紙初編

